

# 銅板レリーフ

## 1 レリーフとは、

レリーフ (relief) とは、**浮き彫り**、または**浮き彫り細工**の事です。一般には浮き彫りの芸術品を指す場合が多く、古くは、**古代ギリシャの神殿**、**ヒンドゥー教**の遺跡など石で作られた物に見ることが出来ます。

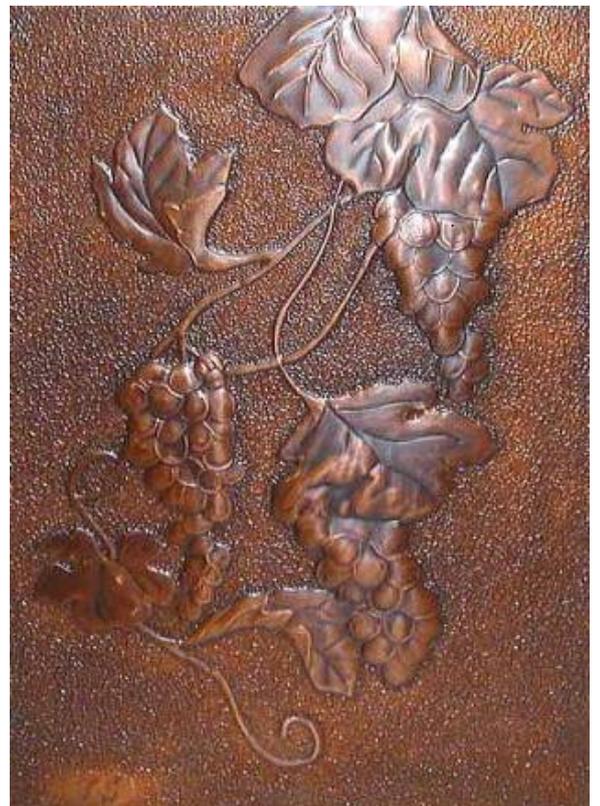
製法は**ノミ**などで石の表面を削る事により像を浮き上がらせます。皆さんの生活に身近なところでは皿やティーカップなどの**陶磁器**に見ることがあります。これらでは、模様を彫り出す浮彫りと、逆に模様を貼り付ける貼花の二方法があります。

また、現在ではハンディタイプの**グラインダー**などが登場し、電動工具で削ることが多く、刃先工具の進歩から**ガラス板**にも彫刻を施すことが出来るようになってきました。銅などの金属を金槌などで打ち出して制作するレリーフもあり、加工が容易なことと表面の処理方法など、彫刻以外の要素で作品に様々な表情が生み出せることから、近年多くの作品が制作されています。また、石材とは違い表面が欠けたりしないので耐久性もあります。



## 2 銅板の特徴

銅は、皆さんには 10 円硬貨が一番身近に感じるかもしれません。また、電線など私たちの生活には無くてはならない金属の一つです。柔らかく粘りもあるので、加工しやすい金属です。最近では、その色もカッパーと呼ばれ、車の色などでおくみることがあります。ただ、表面は酸化しやすく、空気に触れるとすぐに変色し始めていきます。



今回の制作では、厚さ0.15ミリの銅板に下絵輪郭線を描きボールペン（通常は、鉄筆やヘラ）で凹凸をつけ立体感を出します。そのあと**いぶし液**を使い、**硫化変色**させてから明暗が出るよう磨き、最後に透明ラッカーで表面を仕上げます。銅板の地色を生かすモノトーン仕上げや硫化の度合いで多色染めなどができ独特の陰影が角度によって表情を変え重厚で格調ある作品となります。

### 3 制作の手順

#### (1) 題材スケッチ

題材となる植物の葉を幾つかスケッチします。

#### (2) デザインとデザイン写し

- ① スケッチした植物の葉を枠に構成して彫刻するデザインを決めます。
- ② 決めたデザインを銅版に写し込みます。

#### (3) 彫刻

ボールペンやコンパスの先などを使って、銅版に彫刻します。

#### (4) 表面処理

- ① 1次処理  
いぶし液を表面に塗り彫刻した銅版に表情をつけます。
- ② 2次処理  
前回の状態を見てさらに表面に手を加えます。

#### (5) 完成（飾り付け）

完成した銅版を台紙に貼り、飾れるようにします。

